［活躍する卒業生｜Active graduates］

一本松亜祐 | いっぽんまつ・あゆ |

戸田建設株式会社 建築設計統轄部 建築設計第5部（大阪駐在）

一本松亜祐

—

2018年度
大学院工芸科学研究科
博士前期課程
京都工芸繊維大学・チェンマイ大学
国際連携建築学専攻 修了

チェンマイ大学での卒業式：お世話になった先生方と同級生

仕事中の様子

インプットとアウトプットを繰り返した大学時代。その経験が、仕事を前に進める力に直結している。

知識と経験を得た学生時代

小さいころから絵を描くことやものづくりが好きで、中学時代から自分が描いたものが形になる「建築」を将来の仕事にしたいと思うようになりました。本学を志望したのは、興味のあった意匠設計（デザイン）分野において、社会で活躍するOBが多いことや在学中の先輩が学生コンペで数多くの賞を受賞している実績、そして建築だけではない美術やデザインの授業も充実している点から、知識だけではなく社会で実際にものづくりに携わるうえで必要な“技術を身につける”という面でも興味を深められる環境があると感じたことが決め手となりました。

入学後は、大学には自分が想像していた以上の環境があり、先生方に少人数で指導いただいたアトリエやゼミ活動、友人らと夜遅くまで課題やサークル活動に取り組んだ経験、留学生との交流や海外ワークショップを通じ、多くの学びと経験を得ることができました。

中でも、タイ・チェンマイ大学とのジョイント・ディグリー・プログラムに参加できたことは自分にとって大きな転機でした。チェンマイ大学での留学期間では、言語や文化の異なる場所での設計課題やフィールドワーク、リサーチに取り組み、毎日が「新しい環境」でのインプットと、自分の考えをまとめて先生や同期と議論するアウトプットの日々で、密度の濃い時間を過ごすことができました。日本にいたときには当たり前に感じていた建築の仕組みやまちの構成には理由があることを肌で感じられたことは大きな経験になりました。

学生時代の経験が人生の糧に

就職先を選ぶ際、建築設計だけでなく工事も含めた社内チームで建物の完成まで携われるゼネコンの仕事に惹かれたことから現在の会社に入社しました。

建築設計の仕事はどのプロジェクトも同じものはなく、新たな課題に挑戦しながらアイデアを形にしていく日々です。

建物が作り上げられる過程は喜びも大きい反面、努力して作り上げた案が最終的に採用されないことも少なくありません。プロジェクトを推進するためには、どんな時でも思考を切り替え次につなげるために手を動かすことが大切です。

そのときに大学時代の「アウトプットをしてきた経験」が支えになっています。大学では、悩んだ時に手を動かすための起点になる思考のきっかけを先生方や先輩から、また目標に向かい努力する姿勢を切磋琢磨してきた友人から学び、それらをアウトプットする課題やワークショップなどさまざまな機会を持つことができました。そういった一歩先への進み方を学び、経験できたことが今の自分の糧となっています。

自分の可能性を広げるために

後輩の皆さんには、自分の可能性を広げるため、興味があることには勇気をもってぜひ一歩を踏み出し、何事にも挑戦してほしいです。新しいことをインプットすることは広い視点を持つきっかけになりますし、目標に向かって全力で取り組んだ経験は、自分にとって大きな糧になります。

私にとってはチェンマイ大学とジョイント・ディグリー・プログラムを行う国際連携建築学専攻へ進んだことが1つの挑戦でした。当時始まったばかりで前例のなかった専攻でしたがここで手を挙げないと後悔する、と思い飛び込んでみたことでかけがえのない経験を得ることができました。先生方や大学が挑戦をバックアップしてくださる環境があったからこそ、思い切って進むことができたと感じます。

京都工芸繊維大学は、さまざまなことに触れられ、自分の知見を深められる環境と、それを深め表現できる場があり、新しい挑戦を応援してくれる大学です。大学生活の中で、ぜひその一歩を踏み出してみてください。